

- (1) 築炉じん肺訴訟
- (2) 大牟田地区統一メーデーがまだ健康文化九州労働行事
- (折) げんせ熊本報告
- (3) 健康相談会
- (4) 九州北部豪雨災害対策

SOLIDARITE 「連帯」 ソリダリテ

建交労大牟田支部通信 (No. 27)

築炉じん肺第二陣訴訟

雨二七負ケズ被告企業二七負ケズ

築炉じん肺第二陣第8回期日・4月24日(火)10時30分福岡地裁開廷。
当日は大雨の為、門前集会はやむなく中止。
今回の法廷には、建交労大牟田支部9名、福岡県本部1名、福岡合同支部2名、田川支部1名、原告の奥さん、九州支部大分分会1名、九州支部熊本分会1名、福岡県労働連1名、佐賀県トネルじん肺原告1名、国民救援会1名、福建労2名、西日本石炭じん肺長崎請求団3名、合計24名が応援傍聴に駆け付けて頂き、法廷を埋め尽くした。
被告のヤマサキ・大和工業、特に大和工業の弁護士は、大分在住の原告の管理区分の時効のと、原告自身が、「築炉工の作業員らの管理・監督者なので、粉じん暴露は殆どしていない」と言い張る。
更に被告の大和工業は、



証人を準備する事を発した。
伊黒弁護士長から、「その証人とはどんな人物(経歴など)の方なのか、こちらも準備する必要があるのでは、事前に書面で提出してほしい」と述べられた。
原告側弁護士は、事実確認のため、生存原告2名の証人尋問を求めている。
これに対し、被告大和工業は反対尋問を要求してきた。
今回の法廷には、原告も傍聴に参加する予定でしたが、体調不良を訴えあえなく欠席。
そして、今回の意見陳述は、原告代理弁護団の山本先生が行われた。
その中身は、昭和47年制定の労働安全衛生法と、原告らが退職した昭和46年を、被告の大和工業

が、安全配慮義務には関係ないと居直る姿勢が以前から全く変わっていない事。
大和工業が主張している、一定の粉じん抑制装置や防塵マスクについて、も漠然とその装置があった事だけを主張している、その装置の稼働状況や効果には一切触れていない。
更に、被告大和工業は、換気による除じん装置について単純に機械の能力を計算するだけで、実際の現場での実証説明が無い。
又、大和工業のみ就労した築炉工の罹患者がないという主張についても、仮にこれが真実だったとしても、その母数が圧倒的に少なく、統計としても意味をなすものとは言えない。
以上の様に、大和工業のこれまでの主張・態度などは、じん肺を防止することなど到底できない。等の主張をされた。
裁判長は、生存原告の身体の状態を気がけているようで、次回法廷の7月17日(火)に本法廷に原告2名を本人尋問として出廷するよう求めてきた。



裁判長の「原告が生きているうちに何とかしたい」が伝わってきました。加えて、7月2日(月)に進行協議を提案された。原告側からは、野村俊介さんの新たに見つかった年金記録(山戸産業と表示されているが、企業コードが大和工業と一致している)を裏付ける)を提出する。
次回期日は、7月17日(火)10時からお昼を挟んで、午後も行われる。午前と午後にかけて、原告への証人尋問が行われます。
原告にとつて、いよいよ正念場。ここを乗り越ければ勝利はつかめる。
(津波吉)

じかたび

1956年の荒木栄の作品であるが、翌年の日本のうたごえ祭典で、荒木栄指揮で全国に紹介された曲。歌詞を読むと、若き現役労働者に捧げられたように思える。

「夜明けだ」

1. 友よ眠りよりさめてはるか空をのぞめ
見よや黒き雲ちぎれ
今ぞ陽はのぼる
●夜明けだ 夜明けだ
朝がくる
光だ希望だ 太陽はのぼる

2.

友よまなこをひらいてはるか山をのぞめ
山は力にあふれて
われらに呼びかける
●くりかえし
夜明けだ 夜明けの風だ
希望だ 希望の山だ
元氣一杯のぼろう
胸をはつてのぼろう
みんなだ みんなでいざ
のぼろう
手をとりあつてのぼろう
いたわりあつてのぼろう
みんなだ みんなでいざのぼろう

万国労働者の祭典

第89回大牟田地区統一メーデー

前日の雨が気になっていたが、我々労働者の祭典メーデーには、天もが祝福してくれたかのように青空が広がった。

建交労大牟田支部の現役労働者らは、仕事でやむなく参加できなかった方もいたが、全日自労時代からの組合員や労働分会の組合員等14名が駆け付けてくれた。

今年で89回目を迎えるメーデーのメインスローガンは「安倍9条改憲反対 戦争法廃止！市民と野党の共同で安倍政権退陣を！」です。

若い労働者に改めてメーデーを知ってもらおうと、実行委員会から、メーデー始まりの歴史と、地元大牟田が生んだ労働者作曲家・荒木栄が遺した労働歌「がんばろう」の歴史を語られた。

各労組・各団体からのメッセージは、「あやまれ・つぐなえ・なくせじん肺・アスベスト」で共に闘う福建労から、世間を震撼させて

いる「九州建設アスベスト訴訟第1陣・第2陣」の報告と勝利の決意が示された。

そして、建交労大牟田支部からは、津波古氏が壇上に立ち、「非正規労働者と名ばかり正社員の実態」について報告し、これまでの裁判も含め、会社側の不当労働行為に真正面から対決し、新聞報道されている労働者の過酷な実態が、地元大牟田でも起きている事を伝え、「全労働者が権利意識に目覚め、共に立ち上がれば、腐った政治や社会を変えられる。そして、我々労働



者の夜明けを必ずや勝ち取るう！」と訴えた。

今、国の行く末を大きく揺るがす安倍政権の悪行三昧で、次々に起こる幾多の問題を取り上げ、メーデー参加者らと共通の認識とした。

集会最後には、「世界の労働者・国民との連帯を強化しよう。働くものの回結万歳。第89回メーデー万歳！」を全員で確認し、回結カンパローで労働者の結束を図った。

集会後、大牟田の中心地をデモ行進し、市民への元気なアピールとなった。

ちよっぴー息

岩ちゃんの不老不死トレーニング術

三池炭鉱元坑内労働者の組合員、岩ちゃん(岩下幸男さん)は、20年程前に建交労大牟田支部に加盟され、息の長い組合員の一人です。

秘訣はどこにあるのでしょうか？

組合事務所に着って行かれた時のインタビューでは、「毎日、腕立て伏せ200回、腹筋運動100回！」との事です。

アラウンドエイティ(約80歳)な岩ちゃんの身体は確かに引き締まっている。

末永く労働運動・政治的活動するには鍛え上げられた身体が欠かせませんね。

がまだせ熊本!

熊本地震から2年が経ちました。熊本のシンボル熊本城の今を撮ってきました。地震直後は見物に来るひとがほとんど涙を流しながらカメラに収めていました。

しかし、復興が進むにつれて熊本城も生まれ変わわり、今では立派な鯨も取り付けられ、天守閣が上の方だけ見えるようになっていきます。笑顔で写真に収める人も増え期待が膨らみます。



がんばるばい、熊本ッ!
(猿渡)

夏上映100人大会

戦争と人間・完結編

6月10日(日)
 ①10時
 ②14時
 鑑賞料...500円
 場所...だいふく
 5階
 電話...
 (53) 7633

うたごえ喫茶

みなさん、ゴールデンウィークはいかがお過ごしでしたか?
 6月のうたごえ喫茶は、
 ①6月9日(土) 14時
 会場...だいふく5階
 電話...53-3333
 ②6月27日(水) 14時
 会場...れんが停
 (橋交差点そば)
 電話...58-33300
 ③それぞれドリンク代
 500円

監督...山本 薩夫
 主演...滝沢 修
 ..芦田 伸介
 ..高橋 秀樹
 ..浅岡 ルリ子



九州北部豪雨災害

復興はまだ道半ば

5月3日(木)に九州北部豪雨から10ヶ月が経とうとしているゴールデンウィークに、朝倉地域に復興ボランティアとして入った。ボランティアセンターに入るまでの道のりでは、災害は過ぎ去ったもののように被害の爪痕は見当たらなかった。しかし、筑後川から北へ向かうと、まだまだ生業は復興を遂げていなかった。

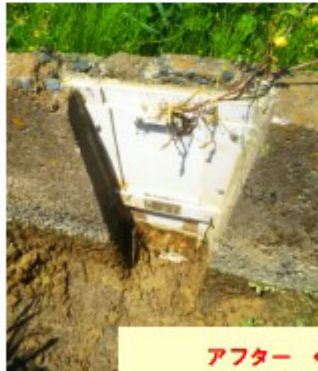
田んぼの水路の泥だしが今回の作業。写真で見ても分かるように、水路に溜まった泥土が田んぼへの水をせき止めていた。今回は、男性3名で泥だし作業。写真のように水路の泥から雑草が根をはわせていてシヨベルがなかなか通らない(泥の深さ30cm)。



泥に潜んでいた蛇やカエルやトンボもいた。何となく応援してくれているように...
 泥だしは、100mを優に超えています。田んぼには必要



な水門も左をご覧の通り、泥を取った。



アフター ← ビフォー

帰り際、昨年の秋に高校の野球部らが、泥だしで入ったと言う農家に行ってみた。農園のご主人は、「高校生たちに再び生業をやる勇



高校生らの写真

その証拠にこの農家のビニールハウスにはハイビスカスが綺麗に咲き誇っていた。



ボランティアって、何かをしてやるってモンじゃなくて、再び被災者を立ち上げさせるのが役目なのだ、熊本震災以来の復習でした。(津波古)

気を与えてくれた」と語っておられた。

働き方改革強行採決

人間に取って代わって人工知能

働き方改革法案が衆議院で強行採決されました。

野党6党派は高プロ（高度プロフェッショナル制度）を外せ！と言っていました。が、与党（自民、公明、維新）が過半数を取りました。

この法案の為に、厚生労働省は労働時間などのデータを調査したりしていましたが、労働条件などの違いをそのままデータにしたり、その他調査ミスが次から次に出ているにも関わらず、この強行採決です。

人間が生きるために働いていくためには、人間が崩れて体調を崩したり、家族との時間が取れなくなったり、イキイキと趣味に没頭できなくなったり、一生懸命働いても三食のご飯を食べられなかったり、官僚や与党の政治家の皆さんは人を人として見ていません。

この日公聴に来ていた労働問題で自殺した家族の方や、うつになったり精神障害に陥った人たちも、この結果に体は硬直し、ワナワナとこの怒りをどこにぶ

つけければ良いのかと震えていたそうです。

人間が生きるために仕事をするのに、パフォーマンスが崩れて体調を崩したり、家族との時間が取れなくなったり、イキイキと趣味に没頭できなくなったり、一生懸命働いても三食のご飯を食べられなかったり、官僚や与党の政治家の皆さんは人を人として見ていません。

このままでは、自殺者が増えたり、精神の病を患ったり、酷いことになりそうです。

そして、労働基準監督署の監督業務の一部について、7月から民間委託が始まります。

社会保険労務士、弁護士、労基署監督官OBらが入札により、時間外労働（残



時事通信：過労死した家族の傍聴

業）などに関する協定の有無を調べ、事業所の同意を得たうえで指導していくそうです。

良い方向に進めば良いのだが未知数です。

他にもハローワークを民間委託の話もあったり、国会の法案もAI（人工知能）にさせようと言っている人もいます。

もう人間が要らないと言っているようで、これは怖いですが現実のようです。

(高橋)

<行事予定>

- 6月 1日 (金) 10:00~労職分会定例会
- 5日 (月) 13:00~公共・一般分会定例会
- 8日 (金) 映画「明日へ」上映会 文化会館 (小ホール)
- 9日 (土) 14:30~革新懇定期総会 (労働福祉会館)
- 11日 (月) 14:00~九州建設アスベスト第1陣訴訟
- 15日 (金) ~17日 (日) 建交労フェスタin北海道 (多田・津波古) 西日本石炭じん肺弁護団会議 (グリーンホテル)
- 20日 (水) 支部執行委員会
- 22日 (金) 10:30~県本部執行委員会
- 24日 (日) 10:00~民間分会定例会
- 7月 2日 (月) 13:00~公共・一般分会定例会
- 6日 (金) 10:00~労職分会定例会
- 11日 (水) 支部執行委員会
- 12日 (木) 10:30~県本部執行委員会
- 15日 (日) 10:00~第64回支部委員会

じん肺検診経過 (4月末時点)

- ・石綿健康管理手帳取得者…4名
- ・じん肺管理区分3イ…2名
- ・じん肺管理区分審査請求…3名
- ・じん肺管理区分3イ昭和62年取得後肺結核治療済み。病状進行を診て貰って再請求を狙う…1名 (元薬炉工)

労災職業病無料相談会

地元を離れて

5月27日
(日) 午後1時から4時まで、サンレイクかすやで、粕屋町・志免町を対象にした「労災職業病 粕屋町・志免町合同無料相談会」を実施した。

健康相談会の事を福岡県本部に相談したのが、2月の県本部執行委員会でした。

3月に入り、松田県本部執行委員長と話し合い、私の意向「梅雨入りする前に一度実施したい」旨を汲んで頂き、対象の地域は県本部のお膝下、粕屋町・志免町になった。

糟屋郡志免町は、旧帝国海軍の炭鉱があった地域で、今も巨大な堅坑槽が残されている。又、糟屋郡は厚労省発

号5月号の記事が余りにも多い為、掲載には至らなかったし、原稿締め切りギリギリに記



表の「石綿ばく露作業による労災認定等事業場一覧表」が示す事業所が5社あり、炭鉱夫じん肺への期待は余りなかったが、アスベストへの期待が大きかった。

今回の企画が動き出したが、広報誌掲載の原稿締め切りが、粕屋町3月23日、志免町3月15日で、広報誌掲載原稿を両自治体に持ち込んだが、広報誌4月

事を持ち込んで、掲載の優先度は一番低かった。

そのため、町の回覧板への掲載を試みたが、町の回覧板を掌る連合会が、会議を開けていなかったため、自治体職員が連合会会長宅へ訪問したが、会長から「会合が開けていないので、私の一存では判断できない」として、回覧板掲載断念。

しかし、粕屋町の広

報担当から、「町のホームページへの掲載」の提案があった為、本企画のチラシを電子データで送信した。(5月1日からホームページ掲載)。とポスター5枚を預かって頂いた。

更に広報担当から提案されたのが、「都市計画課の許可を得れば、駅頭などでポスター掲示が出来るともしいれない」との事だったので、早速都市計画課に訪問し、本企画の説明を行った。話を聞くと「駅の改札内はJRの所有になるが、改札より外側は自治体の所有になる為、当課の掲示許可印を用

いけば掲示可能です」と教わった為、後日、掲示許可を貰いに行った。

粕屋町が管轄する駅は4駅あり、各駅にポスター掲示を行った(ポスターへは名刺サイズの案内カードを入れた。)

又、粕屋町の公的施設(役場・会場のサンレイクかすや)へポスター掲示とチラシを置かせてもらう事にした。志免町については、町議会議員を頼りに役場と交渉した。

結果、役場でポスター掲示とチラシを預かってもらった。「役場の

許可」の強みを活かして、志免町各所にある公的施設4施設へポスター掲示とチラシの陳列を願い出て、了解を得られた。

元々、広報誌掲載を狙っていたが、掲載には間に合わなかった為、粕屋町・志免町で購読者が一番多い「西日本新聞」へのチラシ折込」を決定した。両自治体の読者10,660世帯。チラシ折込を担う企業に相談し、チラシが余り多くない日取りを教えてもらい、4月26日号に折込された。

広報誌掲載は、全戸配布になる為、宣伝の広がりには全所帯になるが、今回は広報誌掲載に間に合わなかった為、利用客の多い駅頭2駅で通勤時間帯を狙ったチラシ配り作戦を実施した。ここには、松田県本部執行委員長・緒方書記長・北村経理担当・吉村青年部長・大牟田支部からは、平川執行委員長・濱田副執行委員長・猿渡労働



分会員・津波古で、2駅のベ2千枚余りを配った。
このチラシ配りは、ポケットティッシュに折り込んだものですが、大牟田支部の組合員に折込して頂き、2千余りのポケットティッシュを作り上げた。

又、ポスターに据える名刺サイズカードの「会場・日程・連絡先シール」貼り作業を大牟田支部民間分会が施してくれた。

更に、福岡支部・福岡合同支部が合わせて1,200枚の地域チラシ配りを実施頂いた。

本企画案内ポスターを32枚。両自治体の電柱を除く、バス停や樹木などに張り付け、誰にでも目に入ればという思いで掲示した。

更に、企画本番直前になり、志免町・粕屋町で企画の音の宣伝を行った。

5月27日(日)本番当日は、地元大牟田市を7時に出発し、9時30分〜11時30分まで音の



宣伝を行った。

相談会会場のサンレイクかすやに、松田県本部執行委員長・緒方書記長・平川支部執行委員長と津波古がスタンバイした。

早々と相談者が現れた。

この相談者の話を聞くと、現役時代に「九州消防工業」に勤められ、日清製粉倉庫・九州大日本印刷・九州大学・ニチレイ(冷凍食品)倉庫・病院や福祉施設への消防設備の取付工事を定年までさ



れていたとの事。消防設備は、消火器や消火栓だけでなくスプリンクラー設置工事も担った。

又、冷暖房の空調設備の時は、アスベストが敷いてあるマットの上を這って仕事をしていた。

この方、最近咳が出やすく、痰がからむようになってたとの訴えがありました。

現在はシルバー人材センターで働かれ、作業としては草刈り機を扱い、扱った後に両手の手握(親指と人差し

指の間)にうっ血が出るとの事でした。

この方に関しては、年金記録を最寄りの年金事務所から出力してもらい、詳しい職歴票作りを行う事と、福岡医療回 千代診療所を紹介した。

この後で、聞き忘れていた事に気付きました。「スプリンクラー設置作業で、天井裏に水道管をはわせたのではないか、天井裏にはアスベストがあったのではないか」と後に反省しています。

相談会に来場されたのはこの方お一人だけでした。この方は、名刺サイズ案内カードを持って来られていました。

今回は、県本部のそうそうたる方々の色々な形での支援を頂いた事と、大牟田支部の組合員たちに宣伝道具の作成をしてもらいました。しかし、今回の結果は、

相談者お一人だけ。この企画に協力して頂いた方々に、本当に申し訳ない思いと、次の企画では同じような事にならないように、最低でも、もう2か月早く着手し、全戸配布になる自治体広報誌掲載、更に掲載料を支払えば広報誌の掲載面積が広がるかなどの問い合わせや交渉など、しなければならぬ事を肝に銘じた。

福岡県本部執行委員の方も「今回は相談者が一人だったが、またやろう。次は字美町のシームイト(福祉交流施設)がよい。広報誌掲載を前提に準備しましょう。」など話し合いました。

大牟田支部では、十分な準備をする事と、運動を継続する事が大切であると話し合っている。

県本部や大牟田支部・他の支部から絶大な応援があり「ひとりみんなのため」に、「みんなはひとりのため」とはこの事であろうと感じた。(津波古)